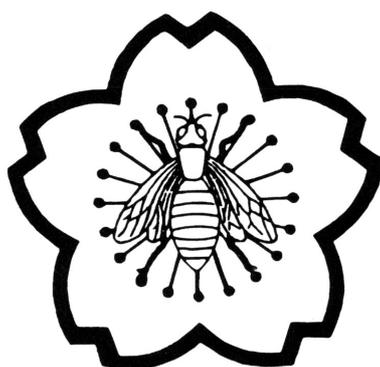


平成20年度
中学生の税についての作文集



熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会
熊 谷 税 務 署

平成20年度中学生の「税についての作文集」発刊にあたって

熊谷税務署管内
納税貯蓄組合連合会
会長 飯島 賢二

謹啓 時下、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素、租税教育につきましては、格別のご配慮を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、わたくしども納税貯蓄組合は、納税貯蓄組合法により、税の納期内完納達成のために納税資金の備蓄を実行することを直接的な目的として設立した団体でございます。同時に税の広報主体として、組合員のみならず広く国民各層に税を正しく理解していただき、ご協力していただくための活動をしており、本年で法施行57年を迎えることになりました。

例年、租税教育推進活動の一環として、多大のご協力を賜っております中学生の「税についての作文」募集事業も、本年で42回を重ねるに至りました。大人でも原稿用紙3枚もの文章を書くことは大変であるにもかかわらず、どの作文もインターネットや書籍等でよく調べ、自分の考えを述べた作品になっていることに深く感銘を受けております。

皆様方のお力添えにより、今年度につきましては、管内中学校30校中30校、4,085点もの作品をご応募いただき、さらには、このたびの中学生の「税についての作文集」を発刊することができましたこと、心より感謝申し上げます。

わたくしどもと致しましては、今後とも皆様方の、深いご理解とご協力をいただき、この事業の発展を期して参りたいと念願しておりますので、何卒、引き続き格別のご配慮を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

末筆ながら、皆様方のご健勝と、益々のご隆盛を祈念してご挨拶といたします。

謹白

発 刊 に よ せ て

熊谷税務署長 母袋三枝子

国民の皆さんが負担されている「税」。中学生の皆さんには、この国民の生活と深く結びついている「税」を、義務として納めていただくだけでなく、その使い道や意義を十分知っていただき、「税についての正しい理解と知識」を持っていただくことが今後の社会を支えていく上で非常に大切なことと考えております。

このため税務署では、県・市町・納税貯蓄組合をはじめとした関係民間団体の方々とともに、次代を担う児童・生徒の皆さんに税のしくみ・働きなどを学んでいただく租税教室を積極的に進めております。

その一環として、中学生を対象とした「税についての作文」の募集を行っているところです。

今年度は国税庁と全国納税貯蓄組合連合会との共催のスタート年ではありますが、中学生の皆さんには前年を大きく上回る応募をいただき、皆さんの税に対する関心の深さを実感しております。

作品の内容につきましても、公共施設の建設や少子高齢化にかかる社会福祉の問題などを題材に、自分の考えを十分に主張されておられ、大変感銘いたしました。

また、作品の中には日ごろ先生方あるいはご家族との間における税の話題を取り上げたものもあり、ご家庭等における租税教育の在り方について大変頼もしく感じた次第であります。

児童・生徒の皆さんに対する租税教育は、先生やご両親と一緒に身近な税を語り合い、そして理解していくことが一番と考えておりますので、これからも学校、地域社会、ご家庭のそれぞれの場において、租税教育にご協力いただきたいと思います。

最後に、「中学生の税についての作文」の募集から審査、作品集の作成まで、多大なご尽力をいただきました熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会の皆様方に厚くお礼を申し上げますとともに、中学生をはじめ多くの方が本作品集をお読みいただき、税に対する理解をさらに深めていただくことを願っております。

熊谷税務署長賞

税の大切さ

暮らしを支える税について

深谷市立南中学校

二年

木村 楓さん

.....

深谷市立花園中学校

三年

富田 千香子さん

.....

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞

「私たちの生活と税金」

熊谷市立大麻生中学校

三年

田口 愛さん

.....

大里地区租税教育推進協議会長賞

「たばこ一箱千円？」

熊谷市立富士見中学校

三年

谷田 柁さん

.....

埼玉県熊谷県税事務所長賞

ぼくたちを支える税金

深谷市立岡部中学校

一年

丸山 芳史さん

.....

関東信越税理士会熊谷支部支部長賞

「身の周りの税金」

深谷市立南中学校

二年

多田 良介さん

.....

その他の受賞者一覧

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会優秀賞

みんなのための税

安心と税金

「税金って何に使われてるの？」

よりよい未来のために

うれしかったグラウンドの修復

税の大切さ

税金を大切に

税の制度が在る生活

税金は何んのためにあるのか

税について考える

熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会佳作

感謝の気持ち

自分達にできること

未来を支える税

税について

税金について

国民の義務である税金

身近な税

熊谷市立中条中学校

三年

吉田 加奈さん

熊谷市立大原中学校

三年

岡田 耶万葉さん

熊谷市立玉井中学校

三年

椎名 沙絵さん

熊谷市立富士見中学校

三年

山本 桃子さん

深谷市立川本中学校

三年

大澤 雅仁さん

深谷布立川本中学校

三年

藤井 彩さん

熊谷市立三尻中学校

三年

江原 友登さん

寄居町立男衾中学校

二年

吉田 寛之さん

寄居町立男衾中学校

一年

荒井 美紀さん

熊谷市立妻沼西中学校

三年

大谷 颯さん

寄居町立寄居中学校

三年

塚田 紗也加さん

深谷市立岡部中学校

二年

田端 一喜さん

深谷市立上柴中学校

三年

羽田 絵里奈さん

熊谷市立富士見中学校

三年

大西 陽さん

深谷市立幡羅中学校

三年

原田 成美さん

熊谷市立三尻中学校

三年

奥富 基喜さん

深谷市立花園中学校

三年

浅香 早織さん

これからのために
生活にかかせない税
豊かな暮らしを願って
税との関わり
ガソリン税について
「税」とは何か
税金の使い方
税って何？
税金よ、人にもっと喜びを！
税について
大切にしなければならぬ税金
みんなが関わる税
説の大切さを体感！
税金について

熊谷市立吉岡中学校	一年	渡部 尚子さん
熊谷市立吉岡中学校	二年	菊地 朝陽さん
寄居町立寄居中学校	一年	新井 詩歩さん
熊谷市立熊谷東中学校	三年	花井 紫苑さん
寄居町立城南中学校	二年	保泉 昌希さん
深谷市立豊里中学校	三年	高野 沙織さん
熊谷市立奈良中学校	三年	塚田 智香さん
深谷市立藤沢中学校	三年	小林 友紀恵さん
熊谷市立江南中学校	三年	関口 鼓弓さん
深谷市立明戸中学校	三年	須藤 歩さん
熊谷市立荒川中学校	一年	松本 祥代さん
熊谷市立妻沼東中学校	三年	福田 早紀さん
熊谷市立別府中学校	三年	笠原 雅美さん
深谷市立幡羅中学校	三年	大久保 奈穂さん

税金は「感謝の心」

熊谷市立小島中学校

一年 登丸直樹

僕達一年生は保育園、マーケット、病院などに職場体験に行くことになった。三日間も学校をあけて外の世界に飛び出すので計画をたてる段階から誰もがワクワクした。

僕の担任は保育園。働く女性を支えるために税金で作られている。最初の日、生まれて一年しかたっていない赤ちゃんを保育園に預けに来た母親。昨夜、下痢をしてあまり食欲がないことを保母さんに伝えていた。

中学生なら自分の口で不調をうったえることができるが赤ちゃんにはできない。母親は仕事に復帰したばかりで休めないということだった。少子化の日本の社会。母親となっても安心して仕事に就くためには厳しい条件が沢山あることだろうが、安心して子供を預けられる保育園があることでどんなに気がやすまることだろう。人と人とをみえない糸でつないでいる税がここにはあった。

マーケットで働いた友達らは品物を運んで並べたり、お客さんの接待をしたり忙しい中にも楽しい三日間だったことを教えてくれた。品ぞろえをしていると野菜や魚など遠くアルゼンチンやカナダなどからも輸入されているらしい。食の安全が大切な今、日本の農作物自給率を上げるためにも税は大切な役を任っ

ている。自分の命の源となる食を大切にして安全な生活を守るために。

病院ではお年寄りの方が安心して治療できるための資金が税金からまかなわれている。少子高齢化の時代を迎えようとしている我国の未来が楽しく明るい環境であるために。

また医療の海外への救援では日本は世界の中で目をみはるものがある。サイクロンの被害に苦しむミャンマー、大地震にすむ家や学校を失った四川省の人々。TVで見る被災者の方々の不安は言葉にすることが難しいだろう。これらの海外への救護はすべて税金からなりたっている。

税金は国を支え、人々の安心をうみ出している。納めた税が目に見える形で毎日の生活に生かされている。

僕のクラスの先生はよくこんなことを言う。「クラスは自分にとって心が落ち着く場所か。他人に何か手伝ってあげようという気持ちを伝えられたか。ありがとうの感謝の心は自分を豊かにする。」

僕達日本を大きな一つの家族と考えたとき税金は「ありがとうの感謝の心」かもしれない。

明るい未来を作る税

熊谷市立小島中学校

一年 澤田 一樹

夏休みの後半は学校の宿題を終わらすのでてんやわんやの僕だ。それでも午前中の部活を休むわけにはいかず、午後は同じクラスの友達に負けたくないのでお昼も母の作ってくれたお弁当をひたすら食べている。

「あー、給食があれば、学校から家に帰らずにすむのにな。」とつぶやいてしまう。たとえ十分で家に着くといっても暑い道を、しかも練習して疲れて空腹の僕はこたえてしまう。

そんなときは給食で出たジャガイモのポテトチップス、ごぼうの天ぷらが頭の中をよぎる。しかもおいしくて安い。一ヶ月四千六百円。母は夏休みになると食事代がばかにならないとこぼす。外食だと一ヶ月分の給食代とほぼ同じ金額。前にインターネットで給食について調べた時、税金が使われているというところがわかった。学校の図書館の本、エアコン、などにも税金が使われている。今、僕の宿題がはかどっているのも税金のおかげだ。税金を払って、納めた税金が自分の元に変えて戻ってきているのだ。僕はだまっけていても机、教科書がそろい、学校で学びたいだけ学ぶチャンスが沢山ある。僕達生徒が何を学んで自分の将来の道を決めていくかはまだまださだかではない。しかし未来へのかけ橋はかけられている。

税金は僕達若者だけではなくお年寄りにもやすらぎを与えている。職業体験学習で「特別養護老人ホームあゆみのさと」を訪問させていただきそれがわかりました。一人きりではお風呂に入るのも大変なおばあちゃんが、気持ちよさそうに湯ぶねにつかっています。お風呂あがり髪をとかしてもらい、シャンプーのおいがして、とても幸せそうな、おばあちゃんでした。トランプを僕達とやって遊んだあと。

「またおいで。待っているよ。」

とおばあちゃんはいっていました。

お年寄りの不安を安らぎにかえ、安心して生活できるために使われる税金は、かけがえのないものです。

明るい未来は、私達人間だけではなく地球の生き物のすべてが願っていることだ。

日本でおこなわれた地球環境サミット。各国の調整、まとめ役をかって出た日本への海外からの見方は期待に満ちていることだろう。税金を正しく使い、美しい日本を作り誰もがほこれる日本にしていきたい。

僕達は非力で知識も乏しいかもしれないが、充実した毎日を税金からもらい、いつしか、今までの恩返しをしていきたい。

いつの日か 必ず…。

「大切な税金」

熊谷市立玉井中学校

三年 三 木 加奈子

私たちが毎日を快く生活できるのは、税金のおかげだ。学校に行く時に通る道も整備されていて、自転車をスイスイこいでいける。学校に着くと、校舎も税金で建てられ、くつ箱や黒板、チョーク、黒板消しに至るまで税金でまかなわれている。授業料ももちろん税金である。そして、ありがたいことに二年前には各教室に扇風機までつけてもらうことができた。私は、とても感謝している。

これらのものは、自分で買ったわけではないからあって当然と思ってしまう。仮にこわしたとしても、自分のおこづかいで買ったものに比べたら落ち込み度はかなり低いのではないかと思ってしまうような気がする。税金で買ったものって自分だけのものではなくてみんなのものでもあるという理由からか、あまり大事にされていないように思う。

そういえば私たちの教科書には、最近、「国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれるようになった。私たちの未来のために教科書を無償で支給されるのなんて、とてもありがたいことだ。それにもかかわらず、時々私は、悲しい光景を見てしまう。それは、そんな大事な教科書を投げる人や教科書に落書きをしている人がいるというこ

とだ。自分だけのものであるにもかかわらず、税金によって支給されたということでありがたみも半減してしまっているのだろうか。

一口に税金というけれど、税金は、わき水のように自然にわいてくるものではない。私たちの父や母が一生懸命働いて、そこから国や地方自治体に納めた大事な大事なお金だ。だから、公共物も支給された教科書も大事に大事に扱わなければならぬと思う。

私はまだおこづかいをもらい、お菓子や文房具を買った時に払う消費税くらいしか税金は払っていないけれど、いずれ私も納税者になる。その時に公共物や教科書などを大切に扱っていなかったとしたら、とても悲しい気持ちになるのではないか。

世界には教科書が欲しくてももらえない子供たちがたくさんいる。国はODA（政府開発援助）で、日本の税金で貧しい国々に援助をしているがそれでも間に合っていない。だからこそ今、たくさん勉強をすることが出来る私たちが、たくさん学び将来、世界に貢献して、たくさんの人々を救うのが一番良い方法だ。だから私は、教科書をたくさん活用し、教科書からたくさん学んでいきたいと思う。

私にとっては、学校で勉強やスポーツをしたりすることで税金が使われているが、世の中には、とても快適に生活できるように税金が正しく使われて欲しいと思っている。

その税金を無駄にしないためにも、たくさん勉強したり、たくさんさんの公共施設を利用したり、そして「税金」のことをよく理解していけたらと思っている。

税で支えるみんなの暮らし

熊谷市立大麻生中学校

三年 真 下 日加里

「税金は、どんな所で使われているか？」私は全く考えたことがありませんでした。私の中のぼんやりとした税金のイメージは、私たち子どもには関係なく、大人が納めて、国の資金となるが、あまり役立っていないものだと思っていました。

しかし、自分たちの生活を振り返ったり、調べてみると、税金は、私たち子どもから老人まで関与する事で、国民が、安全で快適に暮らせるために、数え切れないほどの生活を支える事に大いに役立っているものなのです。

例えば、もし、火事が起きたら110番に電話をして、すぐに消防隊員の方々が火の消火活動にあたってくれます。これは、税金によってしっかり整備されているからです。他にも、警察や、ごみの収集、公共施設などにも税金は使われています。

また、私たちが学校で勉強を学べるのも、税金のおかげです。一人一人に配布される教科書、体育用具や理科の実験用具など、私たちが、教育を受けるのに必要なものにも税金が使われているのです。もし、納税制度がなかったら、教育を受けることができず、将来、働くことも困難な状態になります。

つまり、日本がここまで発展できたのも、常に、その裏には国民からの税金という支えがあったからなのではないのでしょうか？

うか？

他では、世界には多くの人々が貧困や飢餓に苦しみ、深刻な事態になっている国々があります。こうした国々を日本は、国際社会の平和と発展に貢献するために、国民から納められた税金で援助しているのだそうです。税金を国内に限らず、世界の貧しい人々のために役立てる事は、すばらしい事だと思います。今、税金について考える機会をいただき、納税制度の必要性や、使用用途が見えてきました。私たちの何気ない生活は、税金の援助があつてこそ、成り立っているものなのです。日本には、税金は必要ないと思っている人も少なくないと思います。でも、そんな人たちも自分の生活を振り返ってみてはどうでしょうか？毎日、水道の蛇口をひねれば水がでる事をあたりまえだと思わず、上下水道が税金によって、整備されているからなのです。少し違う角度で生活してみるのも悪くないと思います。自分たちで少しずつお金を出し合う「社会への感謝の会費」だと思い、税金のことを国民みんながもっと理解し、自覚していけば、日本は、もっと暮らしやすい国になると思います。

私も、将来は社会人となり、税金を使うばかりではなく、納める日が来ます。自分が受けた恩恵を返し税金のサイクルです。

「税について」

熊谷市立大里中学校

三年 富田 奈央

税とは何だろう。どんな事に使われているのだろう。なぜ世間では、消費税を上げるなどの話がでてきているのだろう。税の作文を書くことでこのような事を疑問に思いました。

調べてみると、税金とは、私達国民がよりよい生活を送るために使うものだということがわかりました。普段何気なく歩いている整備された道路、体調が悪くて診察してもらった病院の治療費、小学校から中学校までの九年間の義務教育、これらは全て税金でまかなわれています。意識して周りを見てみると、たくさんの方に税金が使われていることが分かります。もし税金がなかったら、道路は整備されず快適に道路を利用することができなかつたでしょう。高額な治療費や教育費を各家庭で負担することはできなかつたでしょう。私達が今このように安定した生活ができているのは税金のおかげとも言えるでしょう。

しかも、税金は国内だけでなく、他国でも人の命を救っていることをみなさんは知っていますでしょうか。発展途上国では日本のような先進国とちがいで、まだまだ医療や教育などが整っていません。そのため、飢えや病気、寒さなどでくるしんでいる人たちがたくさんいます。そこで日本は医療や教育の整備、技

術を整えたりと、支援活動を行っています。このように他国に支援が出来るのも私達の税金があるからです。もし、税金がなかったら日本はこんなに安心して暮らすことができなかつたでしょうし、他国との交流もなかつたでしょう。

このように税金はいろいろな事に役立てられていて、国民全員が利用しているのです。

しかし、私達国民は税について関心が低い人が多いのです。税金がどのように使われているかよくわからないからではないでしょうか。税金未納者の人々は、税金の使い道がわからないから払いたくない、なぜ他人の為にと思う人が多いのだと思います。けれど税金は私達一人一人の為に使われているのです。なので税金を払うという感覚で納めるのではなく、税金を預けるといふ感覚で納めてみてはいかがでしょうか。

私は税についての作文を書くことで、税のことをよく知ることができてよかつたと思います。私達の税金がどのように使われているかわかつたからです。私達が生活する上で税金とはなくてはならないものです。なので、一人でも多くの人に關心を持ってもらい、自分のこととして一人一人が自覚してもらいたいと思います。

税の存在

深谷市立深谷中学校

二年 川 上 桃

私の住んでいる地域では、公民館や図書館、文化会館や駐在所、交番などがあります。これらは、国税や地方税で作られた物です。私達の身の回りには、公共施設が沢山あります。公共施設は、みんなに使いやすい物となっています。

警察や消防の活動、医療、教育をする為に、公共サービスの費用は、税金によって賄われています。税によって私達は、平等で安全に楽しく生活する事ができます。

私達が身近に感じられる税は、消費税です。本屋で本を買う時や文具屋でシャーペンを買う時に、消費税が含まれています。又、お父さんからの話では、お父さんやお母さんの給料などから所得税を納めると同じように、会社は会社の所得から税金を納める法人税がある事を学びました。私は、納める税金には色々な形態がある事に気づきました。

国民から税金を集め、そのお金で、国や地方が国民の為に仕事をするという税には大きな役割があります。税金を納めるのは国民の義務だと思えます。ですから、脱税とは、重罪で許されない事です。しかし、収入が全くない人は、税金を納めるのは大変だと思えます。そこで、お父さんの話では「累進課税」といった収入が多ければ、それに課税するという仕組みがある

のだそうです。

私がコンビニなどで買い物をする時は、消費税も一緒に払います。しかし、私が払った消費税には、一旦コンビニで預かり、後でまとめて国に納められています。これを間接税とお父さんは言いました。税金を払う人が直接納める事を直接税という事です。税金の納め方には二種類ある事がわかりました。

私には収入がないのに税金を納めるなんて困るという考えがあります。しかし、これには理由があるとお父さんが言いました。

「世の中が不景気になって給料が減ったら国に入る税金も減ってしまふ。景気を良くするために国がお金を使う事ができない。高齢化といって、会社で給料を受け取る人が減り所得税が減ってしまう。」

しかし、みんな買い物はするから買い物に税金をかければ、国に安定して税金が入って来るのではないだろうか。

こういう考えから消費税制度が始まったそうです。この時の消費税は3%だったのが八年後には、5%に引き上げられたそうです。しかし、ヨーロッパ諸国は、消費税が20%前後あるのが普通です。これからは日本も消費税が更に上がって行くと考えられます。

働く事は、社会に対して自分に与えられた役目だと思えます。社会の一員として存在する意味がある事を一番に実感する一瞬だと思えます。将来の自分は、自分達に優しい社会を築く一員として、そこに自分の生きがいを見つけられる仕事について、税を納めたいと思えます。

税の存在

熊谷市立富士見中学校

三年 内田 成美

ある日、私は病院へ行った。すると母が、診察券と一緒に覚えていない紫色の紙を出したのだった。

私は何だろうと疑問に思っていたが、そのまま診察を受けた。

「内田さん。」と呼ばれカウンターへ向かった。いつものように、薬の説明を受け、お金を払って帰るのだろうと思っていたその時、母はお金を払わず診察券と薬、そして紫色の紙をもらって帰ろうとしている。

私は訳もわからず母を追い病院を後にした。

帰り道、なぜお金を払わず帰ってきたのか聞いてみた。

熊谷市は今年の六月一日から0歳から中学三年生までの子どもを対象とする医療費を助成する制度を始めたそうだった。

今までは、0歳から六歳までしかなかったそうだった。

そこで私はあの紫色の紙について聞いた。

この紙の名前は、『こども医療費受給資格証』というそうだった。これを受付時に出せば医療費が助成されるのだ。しかし、これを出さなければ医療費は助成されないのである。

どこから医療費が払われているのかというと、市から払われている。

病院が市に請求し、税金で払っている。

何故この制度が始められたのか。それは子育てを支援するために作られたそうだった。

市の予算を見ると、一番多く予算がたっていた。私はみんなのために税金が使われているから、悪い気はしない。

税金は、市民のためなどに使われている事がわかった。でも、税金の数が多すぎて頭の中がグチャグチャになったが、とにかく気持ちがよく安全に健康に生活するため税金があるのだなと思った。

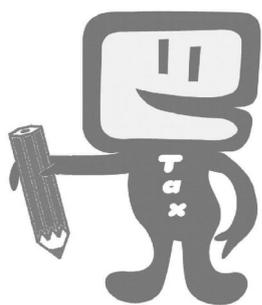
もし、税金がなかったら、日本中とんでもない事になっていただろう。

そんな事を考えてみると、なんだか感謝するような気持ちがわいてくる。

教科書や学校の机、これも税金で買われている。

市民の人が汗を流して得たお金で私たちが使っているのだから。大切に使うと、税について考えて、あらためて気づかされた。

税金はなくてはならない存在だと私は考えている。



税の役割

深谷市立花園中学校

三年 河田 みのり

消費税、私たち中学生にとって最も身近な税である。何かを買う時、商品代にプラスして払う。私は疑問に思っていた。なぜそんなものを、払う必要があるのだろうか。払った税が、どのように使われているのかわからなかったため、私は税に対し、悪いイメージしか持っていなかった。

そこで、疑問を解決するために税について調べてみることにした。

私たちが毎日、あたり前のように通ってきている小・中学校は、教科書代なども含み、無償である。このお金はどこから出しているのだろうか。自然に空から降ってくるのでも、土を掘れば出てくるのでもない。そう、ここで税金が使われていたのである。国や地方の団体が、私たちが平等に学べるように、教育費を出してくれていたのである。

税金が、こんなにも直接自分に関わっていたなんて、考えもしなかった。日本国民が払っている税金を学生に使っていただいてることを知り、感謝の気持ちを持って学校へ通い、学びたいと心から思った。

社会保障関係費というのを知っているだろうか。国の支出総額約八十三兆円のうち、約二十一兆円、つまり税を約四分の一、

これに使っているという。税を払わなかったら、高齢化の進んでいる日本の未来は危うい。医療費の負担ができなくなるのだ。高齢者の心身の健康、安全な生活の保持のために税金を使っていることも覚えておきたい。

自国だけのために、税を使っているのではない。発展途上国の経済発展のためにも使われている。先進国としてあたり前のような気もするが、経済協力をするのはよいことだ。国民の納める税が、世界の役に立っていることを誇りに思う。

これらを始め、何にどれくらい税が使われているのかも知らず、知識不足で、勝手に税に対しマイナスイメージを持っていた自分を、とてもちっぼけな人間だったと思う。比較的安い値段で、生活上必要な様々なサービスの提供や、世界の役に立ってくれている税をありがたく思う。

現在日本は、少子高齢化が進んでいるので将来、私たちの税負担が増える可能性がある。しかし納税者になったとき、国を支えるのは私たち一人一人という意識で納めたい。

国民の義務である納税。嫌なものだと思っていたけれど、幸せに暮らすために必要不可欠である。税の役割を知った今、更に関心を持ち、理解を深めたい。

私と税金

熊谷市立大幡中学校

三年 佐藤 彩香

私はいままで税金のことをよく知らなかったし、税金について真剣に考えたことがありませんでした。私は、中学生なのだから税金と直接関わりがないのだし、将来、社会人になったら、納めなければならないものだとは思っていませんでした。しかし、学校の社会の授業で先生が、「先生達の給料も実は、税金から払われているのです。」と話していたのを聞き、私自身も税金と深く関わりながら生活していたことに気づかされました。そこで、他にも私と税金が関わっていることはないか、考えてみることにしました。

まず、私が通っている学校ではどうか。先生方の給料の他にも、校舎を建てるための費用、私達が使う机やいす、教科書も全て税金によって支えられています。実際に私の教科書の裏には、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、国民の税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」と書かれています。それに、私は休み時間などによく、図書室を利用します。図書室には、読みたい本がほとんどそろっているし、クーラーがついているので、快適に本を読むことができます。そんな、あつてあたりまえになっっている本も、クーラーも税金がなかったら、そこには存在

しません。税金があるからこそ、私達は中学生として勉強し、学校へ通うことができるのだと思いました。

それでは、学校以外に税金は、どんなところで私と関わっているのでしょうか。まず初めに思いついたのは、最近、きれいにほ装された道路でした。その道路をつくるのも、直すのも税金で払われていました。それから、この前、私が体調をくずして病院に行ったとき、払うはずの治りよう費がかからなかったことがありました。私がおどろいて、母に聞くと、「かかった治りよう費の3割は自分で払わなければならなかったのだけれど、税金で負担してくれることになったんだよ。」と言っていました。私達の住んでいる熊谷市では15さいまでの子どもにかかる治りよう費を、市で負担してくれる制度がはじまっていることを知りました。そのうちの7割は国の税金で負担してくれていることも初めて知りました。他にも、障害者の方のためのバリアフリー化が進んでいるのも、公園の遊具で遊ぶことができるのも、税金のおかげなのです。

私は、中学生の私と税金は関わりのないものだとばかり考えていましたが、実際はこんなにたくさん税金に、私は支えられていることを知りました。最近、お金はあるのに税金は納めないという人がいるけれど、税金は結局は私たちを支えるものとして返ってくるのだから、将来、私が納税者になってもこのことを忘れないでいたいと思いました。

『私の家の納税』

熊谷市立小島中学校

一年 小林 知夏

私の家は専業農家です。納税は『青色申告』という方法で行っているそうです。『青色申告』って？と父に聞いたところ、一冊の手引き書を見せてくれました。そこには、こんなことが冒頭に書かれていました。「青色申告のすすめ」ますます興味を持ちました。でも読み始めて見ると専門用語がたくさん出て来て、初めて、目にする言葉はとても難しいと思いました。

現在の農業は、輸入による農産物価格の低迷や自然相手の作物の為、生産量の不安定さが問題だと父が言っていました。いかに優れた経営感覚を持つ農業者になるか、毎年毎年勉強だそうですね。日々の記帳を基に約束ごとを守りながら、個々の経営実態に応じた納税節税が図れる「青色申告」はとても合理的な「税務申告ができる」とともに、いろいろな特典があると書かれています。

そんな中いつも父が目指していることは、所得税が前の年よりも多く納められる位の経営をするということだと言っていました。いくら頑張っても、なかなかそうならない年もあるらしいのですが、作物の値が出て、お客様からたくさん注文がとれる様な経営ができなければダメだそうです。注文がたくさんあった時の我家の作業場は、笑顔があふれ、活気もあります。

そう言えば、今年の春に学校の課題で、『働く人々の仕事を考える』というものがあり、会社を経営している親せきのおじさんに質問を答えていただいた中に、今後の抱負は何ですか。という質問がありました。その答えが、「もっと会社を大きくし、利益を出して税金を払う。これが会社としての使命と考えている。社会に貢献することが自分に課せられた使命と思っている。」と回答されていました。とてもりっぱだなと思いました。父もおじさんも経営の規模は違うけど目指しているものは、同じだなと感心しました。

私達が学校で学べることや、日々の暮らしを安心して豊かに暮らせるのは、税金のおかげだということを知りました。私は国民の一人一人が国を大切に、税金をきちんと納め、大切に使用して行くという意識を持つ大人になりたいです。もっともっと税のことを勉強し今私にできる税金のムダ使いをなくしたいと思いました。



税の大切さ

深谷市立南中学校

二年 木村 楓

私は正直、税についてはよく知らないし、そこまで深く考えたことはない。私と同じような人は他にもいるのではないだろうか。しかし、少し考えてみたところ、疑問などがたくさん出てきました。

まず一つ目に、税は何に使われているのかということ。私たちの周りには便利な建物がたくさんあります。例えば、病院や図書館、公園などよく利用するこれらのものは、すべて税金でつくられたものです。税がなければ、子供たちの喜ぶ遊び場やだれもが利用する病院、そしてお年寄りの為の老人ホームなどは出来ていなかったのではないのでしょうか。このような公共施設をつくることに税はつかわれています。

二つ目に、税は必要であるのかということについてです。私は、税は必要あると思います。理由は次の通りです。

理由の一つとして、前文で述べた公共施設をつくることをしているからです。もし、病院や老人ホーム、警察がなくなってしまうたら、皆困ると思います。そのような施設をたてたりするために必要だと思えます。

二つめに、私たち学生は教育費を負担してもらっているからです。小学生のうちには八十五万弱、そして中学生では九十一万

弱も負担されているのです。私たち学生が学習していくうえでも、それは大事なお金です。私たちがすわっている机やいすなどの備品も税からだされているのです。もちろん、授業で使っている教科書、黒板、コンピュターなども税の補助を受けて設備してあるのです。そのようなことを考えると、この学校での快適な生活は税のおかげではないかと思えます。

私はこのような理由から、税は必要であると考えました。その他にも、消防署、公民館、焼却場、道路などの様々な場面で税は使われています。

想像してみてください。道路がなければ歩くのも大変なデコボコ道、信号のない交差点、消防車のない消防署、雨もりをした学校。とてつもなく不便だと思いませんか？

税は、みんなが不便なく快適にすごしていけるように手助けしているのです。今の私たちにとって税は必要だと私は感じます。

私は、この作文を書くことを通して税は生活の中でとても大事なんだなと思いました。税がなくなってしまうえば、私たちの快適な生活はなくなってしまうと思います。きれいな水がのめるのも、学校で不便なくすごしていけるのも税のおかげです。

私は、これだけで終わりにするのではなく、これからもう少しづつ税に関心をもち、理解を深めていけたらいいなあと思います。

そして、日々の家や学校での生活に税がかかっているというのを自覚し、物を大切に、感謝の気持ちをもちたいと思います。

暮らしを支える税について

深谷市立花園中学校

三年 富田 千香子

私は今まで税についての知識が全くありませんでした。税の種類も消費税しか知らなかったし、それしか身近に感じられるものもありませんでした。しかし、今年、税についての作文を書くことになり募集要項をみて、私たち中学生一人に年間九四八〇〇〇円（平成十七年度）も使われていると書いてあり、びっくりしました。

何げなく毎日私たちの通う学校。この学校があるのも税金のおかげです。友達と沢山の思い出をつくったり、勉強をしたり、部活動をしたり、私達が大切な時間を過ごせるのも税金や陰で応援してくれる人達のおかげです。私たち中学生は税金をあまり納めないのに、たくさん税金で支援していただいていると思うと今ある環境に感謝して将来恩返しをしなければならぬと思います。

調べてみて税金は私達の生活にも大きく関係しています。私の住む町には、公園もあり図書館もあり、スポーツ施設もあります。そのおかげで健康で文化的な生活を送ることができています。それらも、税金を使って造られていることを考えると税金が担っている役割を強く感じます。税金について父に質問してみました。私の父も働いて、所得税や住民税、自動車税そし

て、お酒も飲むので酒税など、たくさん税金を納めていることを知りました。こうして一人一人が納税の義務を果たして、私たちの生活をよりよいものにしていくために使われるのが、現在の税制です。

教育以外にも、社会保障や公共事業、国際貢献にも税金は使われています。また、所得税などの直接税は、支払い能力に応じて負担することが原則なので所得の格差を直す働きも、社会保障の支出を直して人々の所得を再分配することができ、国民の間の所得開きを縮めることもできるそうです。少子高齢化が進む中、医療や福祉などの負担税の見直しなど、世の中の変化に伴ってそのしくみが変わっていくかもしれません。ただ、どんなときも大切なお金が無駄なく使われるよう、望みます。

私たちが大人になる頃には、一人一人がますます重要な役割となるでしょう。そのときしっかりと責任のとれる大人になりたい、と私は思います。

税とは、人と人をつなぐ大切なものだと私は考えています。直接ではないけれど、税を払うことによっていろいろな人を助けたり助けられたりしています。そのことを私はこの作文を書くにあたって知ることができ良かったと思います。そしてこの作文を書く前と後では考え方が変わりました。納税とは義務であると同時に、私たちの生活を支えている大切なお金である事を学びました。

「私たちの生活と税金」

熊谷市立大麻生中学校

三年 田 口 愛

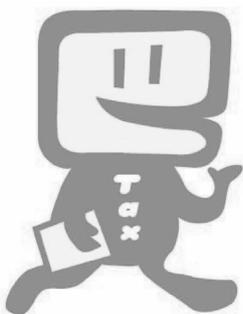
今回、私はこの作文を通して普段あまり考えたことのなかった「税金」について学び、また「税金」への見方が変化するきっかけとなりました。

まず、私達が通う学校と税金を関連させて考えてみました。私達は小学校の頃から毎年新学期になると新しい教科書が無料で配られます。私は小六の頃まで、その教科書が税金によって私達のもとへと届けられることを知りませんでした。中一の新学期の際に先生が「この教科書は税金によって配られるものだから、大事にしなさい」と言っていたのを覚えています。国民の皆さんが私達のために税金を払って下さり、とてもありがたいことだと思いました。教科書は私達が勉強するために作られているものです。その教科書を大事に使い、たくさん勉強して、皆さんが納めて下さった税金に感謝して決してムダにすることなどしないように、それによってたくさんのお金を学んでいきたいです。

次に私達の暮らしと税金を関連づけさせて考えてみました。私達が今、こうして快適な暮らしを営むことができているのも税金のおかげなのです。私は以前に、道路に「止まれ」という文字をかいていたのを見かけたことがあります。それまでは

「止まれ」という文字が薄れていて、私はそれを「見づらくなってきたなあ」と、その場所を登下校で歩く度に思っていました。それがある時、整備されているのを見てとても嬉しくなったのを覚えています。私はその当時、税金によって補修されていることを知りませんでした。また、ゴミを収集し、それを処理するのも税金の力であることを知りませんでした。私達が生活していくにあたって、税金はとても大きな役割を果たしているのです。税金と、暮らしがこんなにも深く関わり、私達は不便なく生活していけることにも感謝したいです。

こうして改めて考え直し、ふり返ってみると、もはや税金がなくては、私達は今の生活はできないと思います。国民の皆さんが出し合ったお金が、私達の教育を成り立たせ、暮らしが豊かになり、こうして今を生きていけるのです。国や県、市町村のすべての国民の方々に対する感謝の気持ちをいつも忘れずにもってたいです。そして未来を支える私達が、大人になった時は今を生きる大人の方々のように、社会の一員としての役割をしっかりと果たせられるよう、頑張りたいです。



「たばこ一箱千円？」

熊谷市立富士見中学校

三年 谷 田 柁

少し前のことになるが、朝の情報番組を見ていた時、「税収を増やす為タバコ税を上げて一箱千円にしたらどうか？」といったことを検討する委員会が発足したというニュースをやっていた。その番組ではアンケートなどをとっており、その結果は、当然タバコを吸わない人達は賛成の人が多く、吸う人は反対という人が多いという結果だった。その番組を見た時の僕の感想は、まず第一に、「そんなことをまじめに議論するために委員会なんて出来ちゃうんだなあ」というのと第二に「まあでも、タバコを吸う人のまわりの人にとっても体に悪いんだし、それをわかっている人も好きで吸っているんだから、少しぐらい高くてもいいのかな、でも、千円って高いかなあ」という程度だった。しかし、今回税について何かと考えた時、このタバコ税について思い出し、ふと疑問がうかんだ。消費税の考え方はわかる。今は五パーセントだけど、何を買っても、誰が買っても平等に税金を支払うことになる。みんなのための税金なのだから、平等に税金を納めることになる消費税という考え方は理解できる気がする。しかしなぜ、タバコ税があるのか。しかも、「わたしたちのくらしと税金」を見るとタバコ税は、国も県も市町村もかけているのだ。なぜそんなにたばこだけ税金がかかって

いるのだろうか。

僕の父はたばこを吸うのだが、このことについて聞いてみた。すると「たばこは生活していくために本当に必要なものじゃないから。」と答えた。つまり生活する上で必要な物に、あまり高い税金をかけると、みんなのための税金がみんなの負担になりすぎることなのだ。たばこはみんなが吸うものではないし、なければなくても生きていける物だから、税金を払っても買いたい人だけが買えばいいという考えらしい。それならと、もしたばこが千円になってもいいと思うのか聞いてみると、父は笑って「千円になったらやめるだろうな。そういう人が多いと思うよ。そうすると今より税収は減るかもな。けれど、やめた人たちが健康になって医療費も減るかもしれないぞ。」と言った。僕はそんなにうまくいくかなあと思ったけれど、そういう色々なことを検討するために委員会が発足したのなら、とことんやってほしいと思った。そしてその中でより良い税金の使い方についても検討してほしいと思うのだ。何よりも僕達が納得して税金を払えるようにしてほしい。

僕が二十才になるころ、たばこは一箱千円の高級品になっているのだろうか。

ぼくたちを支える税金

深谷市立岡部中学校

一年 丸山 芳史

ぼくたちが暮らす日本の国は、世界の中でもとても恵まれた国だと思います。ぼくたちが安全に暮らすために必要な道路や河川は整備され、警察署、消防署なども整っています。また、ぼくたちに無くてはならない学校や図書館なども街にはたくさんあります。ぼくたちは、生まれた時から、このような恵まれた環境を、当たり前のように思いながら生活していますが、新聞やテレビなどで他の国々と比べた時、その違いの大きさに驚かされます。

ある国では、学校も行けず、やりたいスポーツも出来ずにいる子どもがたくさんいると聞きます。そういった様々な国の現状を見たり聞いたりするたびに、日本に生まれて良かったと思います。

ぼくが他国に比べ豊かだと感じている多くの部分は、実は「税金」によって創られているのです。日本の成人、一人ひとりが納めたお金が国全体の人々に還元され、生活のあらゆる場所ではぼくたちの支えとなっていることがわかりました。

ぼくは現在中学一年生ですが、今まで毎年無償で新しい教科書を手に入れることができました。これも「税金」のおかげです。

ある日、新聞に、公立学校の児童、生徒、一人当たりの年間

教育費が載っていました。小学生では八十四万円、中学生では、八十九万円、高校生では、九十万円近くにもなります。他にもぼくたちの生活や安全を守るための警察や消防費、市町村のゴミ処理費用、医療費など、これらがあつまることで、ぼくたち自身に還元されているのです。

しかし、この「税金」をだれが、どのようなかたちで負担するかは、とても重要な問題だと思う。善良な納税者も数多くいると思いますが、脱税をする人や滞納している人も少なくないと聞きます。そういった人が、一人また一人と、増えていけば、大変な問題になると思います。重すぎる負担では、人々の生活が苦しくなるし、反対に、税収が少なければ、国の財政は困難になってしまいます。税の公平とはたいへん難しいテーマのように思います。

中学一年生のぼくは、世の中のことがまだまだわからないことばかりだが、みんなのために使われる税金の使い道などについては、関心を持っていきたいと思う。そして大人になった時には、正しい知識をもって納税する！責任感のある大人でありたい。



「身の周りの税金」

深谷市立南中学校

二年 多田良介

僕達学校に行っている人達は、皆学年が一つ上上がるごとに新しい教科書が配布されます。これは、中学校、小学校もすべて同じようにされている事ですが、いつもなにげなくもらっているこの教科書、紙も良い物も使っているし、色もとてもきれいに使われていて非常にきれいです。この教科書はとても安い値段で買える物とは思いません。なぜこのような立派なものが、学校一つ一つに何百人といるところに生徒全員に、しかも何種類も配ることができるのか、小さい時の僕にとっては、ちよつとした謎でもありました。

その謎が解けたのは、学校や教科書にもなれてしまっていた、小学校高学年の時です。一つ上の新しい学年になり、いつものように前から配られてきた教科書を自分の分だけを取って後ろの人に回そうとしている時に、担任の先生がこう言いました。

「みんながいつもなにげなく持って、使っているこの教科書は、国の税金で買われているんだよ。みんなのお父さん、お母さん、あとそれ以外の日本中にいる大人の人達が働いて稼いだお金で買われているんだよ。みんなは日本中のいろんなたたくさんの人達のおかげでこのみんなが持っている教科書を使うことができるんだ。そのことにみんなは感謝して、落書きなんかしないよ

うに、きれいに大切に使ってくださいね。」

この時、先生が僕達に伝えたかったのは、きっと最後の一行だったのでしょう。でも僕はその前の言葉に耳がいきました。

「このふだんなにげなく使っている教科書って日本中の人達が僕達みんなに買ってくれているんだ。」

この頃、税金という言葉は、普段生活していく中で、たまに聞かなくていいで、僕には意味がまったく分からなかったんですが、僕が税金という言葉の意味を知って意識し始めたのはこの頃だったのだと思います。

僕達の生活の中では、税金がいろいろな形で生かされています。市に納めていた税金がみんなが遊ぶ公園になったり、国に納めた税金が収入の少ない人の手助けとなったり、税金のおかげで、僕達の生活が豊かになっていっているのではないのでしょうか。僕は少しでもみんなの生活が良くなるように、楽しくなって、人々の笑顔のもとになってくれればいいと思います。

僕は、これからも、税金のありがたみを忘れずに、大人になっても、今の僕達のような中学生が教科書を一人一人持つてちゃんと授業ができるような未来にしたいと思います。

僕は、この作文で忘れかけていた物をおもいだせたので、僕は今から、教科書や机にある落書きを消すことから始めようと思いました。

編 集 後 記

本年も、熊谷税務署管内の各中学校の諸先生方をはじめ、納税貯蓄組合の役員各位、更には、熊谷税務署のご支援を賜り、中学生の皆さんから4,085作品という多数の応募をいただくことができました。あらためて心より感謝申し上げます。

本来であれば、応募者全員の作品を載せたいところではございましたが、ページ数の都合上、受賞された方の一部の作品しか載せることができなかったことをご容赦いただければと思います。

平成20年11月17日

発 行 熊谷税務署管内納税貯蓄組合連合会

〒360-0041

熊谷市宮町2-39

電話 048-521-4600

発行人 飯 島 賢 二

